

いざ往かん！

太田東高校キャリア教育部

2020.7.3(金)発行 No. 6

茨城県の大学を知ろう！

～シリーズ：大学について知ろう（その4）～

今回は茨城県ですが、同じ北関東でも群馬県とはだいぶ大学事情が異なります。その最大の要因はなんと言っても**筑波大**という図抜けた存在。1974年開学のこの大学の前身は東京にあった東京教育大ですが、移転とともに研究学園都市の中心的存在として総合大学となり、その結果社会的評価も高まり全国から学生が集まる人気大学となりました。県外者が目指すのはどうしてもこの大学になってしまいます（来年、入試方式が変わるので希望者は調べよう！）。この筑波大の陰に隠れ目立たないのが元々茨城県唯一の国立大学だった**茨城大**ですが、実は2017年に学部・学科を改組し頑張っているのです。なお、茨城県にはもう一つ**筑波技術大**という国立大学がありますが、こちらは視覚および聴覚障害者のための大学です。公立大は保健医学部（看護・理学療法・作業療法・放射線）の**茨城県立医療大**のみ。私立大では「日本通運」の寄付で開学した**流通経済大**が変わっていて、通学するキャンパスを茨城県の龍ヶ崎にするか千葉県の新松戸にするか入学時に自由に選ぶことができます…。

以下の文章は**4年前（2016年）**に私が茨城大学へ行ったときのことを書いたものです。オープンキャンパスも今年はWebがほとんどなので、これを読んで常陸路の雰囲気味わってくださいな。

IBARAKI UNIVERSITY 「いばらぎ」じゃなくて「いばらき」だって知ってた？

茨城大学に行ってきました…

♪人生楽ありゃ苦もあるさ 涙の後には虹も出る～ というわけで、水戸黄門のお膝元である茨城大学の説明会に行ってきました。茨城大は人文・教育・理・工・農の5学部がある国立大学で、来年度から学科再編が予定されているのです。今回の旅のお供は恩田陸の『夜のピクニック』。水戸一高伝統の「歩く会」と呼ばれる強歩大会を舞台とした名作であることは知っていたのですが、今まで読んでいなかったのです…。

茨城大学は関東にある国立大学では入りやすく、お得感のある大学なのだ…

北関東3県の中で、一番人口が多く唯一海に面しているのが茨城県。しかし群馬・栃木と違って世界遺産はなく、新幹線も通っていないため人の出入りが少ないのです。しかも、茨城県南部は筑波学園都市として発達し人口も増えているので、なおさら茨城県北部には衰退感が漂ってきます…。でも水戸市の人口は27万人で堂々県内第1位、日立市も19万人でつくば市に次ぐ県内第3位。ともに暮らしやすい地方中核都市なのですよ。ところで、茨城大を入りやすくしている要因の一つが筑波大学の存在。同じ県内に偏差値ランクが上の国立大学があるため、茨城県内の学力上位の高校生は筑波大学を目指してしまいます。人文・理・農と群馬大学には存在しない学部があり、しかも工学部は2年次から日立キャンパスとなるため群馬大理工学部よりも入りやすい…これってお得かも!?

読書に最適な水戸線でゆっくりと水戸に向かい、黄門様の銅像を拝みつつバスで茨城大へ

両毛線の終着駅小山で水戸線に乗り換えます。茨城県の田園地帯を横断する水戸線は、いくら走ってもほとんど風景が変わりません。つまり外を眺めていても全く面白くないので、読書に最適です。『夜のピクニッ

ク』は高校生たちの描き方が見事で、彼らの会話に思わず引き込まれます。特に女子生徒の描写は秀逸で、「もしかして恩田陸って女性なのでは？」と思って調べてみたら水戸一高・早稲田大学を卒業した女性でした！（男性作家だと思っていた自分が恥ずかしい…）。家を出てから3時間ちょっとで水戸駅到着。水戸駅にはある水戸黄門の銅像を拝み、バスで「茨大前営業所」へ(25分)、さらに徒歩2分でやっと茨城大学水戸キャンパスに到着しました。



水戸駅前の黄門ご一行様の銅像

学食で昼食をとり、キャンパスをぐるっと巡り、コーヒーを飲みつつ読書にふける…

正門から堂々と入構すると、広場を挟んだ目の前にどーんとリニューアルされた図書館があり、その周囲に各学部の建物があります。まずは正門近くの歴史を感じさせる（つまり古い）生協に入って昼食です。1階がカフェテリア形式、2階がグリルなのですが、両方とも使いやすそうな広さで（つまり狭い）、結局空いている2階へ。何を食べるか人生の悩み…そう、悩んだときは定番の「カツカレー」だっ。と言うわけで、カウンターにいる厨房熟女に思い切って「カツカレー大盛り」（496円）を注文。カツは厚くはないが揚げたてでサクサク感があり good。でも肝心のカレーがお子様味なので、総合点は72点で評定は「4」（通知表か!）。

昼食後、キャンパスを一回り。各学部の建物は比較的新しく、すれ違う学生たちの姿も真面目そう。一回りしてもまだ時間があるので、図書館に併設されている SAZA COFFEE へ。1杯350円以上もするコーヒーを飲む学生は予想通り少なく、落ち着いて『夜のピクニック』の続きを読むことにします…。

かわいいお姉さんによる図書館ツアーの後の説明会は、教授達に熱が入り時間オーバー続出…

説明会は図書館3階のライブラリーホールで行われました。説明会の前に図書館ツアーがあったので参加すると、茨城訛りがいい感じの可愛いお姉さんが案内してくれます。2年前にリニューアルされたという図書館は、共同学習エリアやグループ学習室なども整備され、使い勝手がよさそうです（この後行われた説明会で、茨城大の授業のほとんどはアクティブラーニングだとアドミッションセンター長が豪語していました）。その後、いよいよ説明会です。



茨城大自慢の図書館

茨城大の学科再編は主に3学部で行われるそうです。まず人文学部は「人文社会学部」という名称となり、3学科体制に再編。定員も各学科100名以上と地方国立大の文系学部としては大きく、特に人間文化学科には心理学を学べる専攻もあり人気を呼ぶかもしれません。説明していた教授に段々熱が入り時間オーバー！ 農学部は2年次から阿見キャンパス（筑波学園都市に隣接）ですが、こちらは従来の3学科を2学科4コースに再編。地域から世界の「食と農」に関するプロを育てる！と教授の鼻息は荒く、最後には「農学系は現在トレンドだ！」と叫び始め当然時間オーバー!! さらに教育学部の教授も教育学と心理学を融合させた「教育実践科学コース」の新設という当たりから熱が入り始め、大学入門ゼミや茨城学、独自の英語教育（1年次と3年次に全員受験する TOEIC の受験料は大学負担!）にまで話が進んでこれまた完全に時間オーバー!!! 本数の少ない水戸線に乗るために、入試部分の説明を聞くことなく私は席を離れたのでした…（受験する人は自分で調べよう!）

帰りの水戸線内で『夜のピクニック』読了！そして今回のお土産は？

実は生協購買部で土産を物色したのですが大学グッズが少な〜い。結局、国土地理院のある茨城県が大好きな息子に「茨城大学ロゴ入り4色ボールペン」（324円に値下げしていた）を購入したのみ。このままではカミさんに怒られそうなので、水戸駅の売店で茨城銘菓「水戸の梅・のし梅」（各4個入り、864円）を急いで購入し、水戸線小山行きに乗車。車内でついに『夜のピクニック』を読了…やはりこれは名作で、高校生の彼らと一緒に80キロの道のりを夜通し歩いたような気分です（できることなら高校生に戻ってもう一度青春した〜い!）…。 ♪歩いてゆくんだったしっかりと 自分の道をふみしめて〜